

「ロンドン近郊自治体 PFI 関連部署訪問」 10月26日（月）

- IT,PFI の複合導入の経緯と概要
- 公共側および民間側の事業範囲の概要
- 権限委譲の概要と民間ノウハウを引き出すための工夫
- ※ 訪問時間 10時から 11時30分
- ※ 応対者、概要、質疑応答について ハビヤーエンビーンナス（国際部トレーニングプログラム）
- ※ 所感

今回の英国における PFI 事業の現状と課題について、視察の目的は、日本における、PFI 事業の問題点を明らかにすることであった。

それは、世界の中で、多分 PFI 事業において、唯一英国のみが、曲がりなりにも成功を収めているのは、どこにその違いがあるのかを探ることにあつたと思われる。しかし、それは、多分に中央政府の問題であつて、今回の政治改革によって成立した、民主党政府の課題であつて、自治体の立場からすると、これを教訓に、民主党政府に対し、PFI 事業の仕組みづくりを、政府自体が取り組んでほしいと政府に提言する参考にはなつたが、直接自治体自信の PFI 事業の参考にはなりにくかつたというのが率直な感想である。

その上に立つて、英国の PFI 事業を教訓化するとすれば、そもそも何故、PPP が必要であるかについては、国家公務員は3年ごとに、省庁を移動するために、安定した基盤が確立できないということである。そのため、公的インフラサービスを、民間と協力して、推進する独立した機関が必要であるということから、2000年に作られた機関である。

PUK は、政府49%民間51%の出資で作られた機関で、70名の専門スタッフによって運営されている。彼らは、法務、財務、技術の専門家から成り立っている。この中心を担うのは、財務省である。PUK は、PPP の政策、プログラム、執行を行う。このパートナーシップのもとに、各省があり、PUK は、各省にアドバイスを行う。PUK は中央省庁を対象にしており、地方自治体を対象にアドバイスするのは、FPS（ホーピーエス）である。PKUは運営的にも財務的にも独立しており、有償である。機構は民間、使命は公的使命、理事会は公的機関が行う。政治的には中立で、政権の移動にかかわらず、運営するので、強い提言ができる。

現状における公的投資の115がPFIで行っている。英国においては、おおむね2000万ポンド以上の公的機関がPFIの有効性があるといえる。

それ以下であれば、公営でやったほうが有利といえる。それは、入札準備に多くの時間と多くの費用を要する厳しいチェックがあるからである。

○ IT事業におけるPFI事業。

IT事業関係では、現在PFIを使っていない。使っていないのは何故か？

PPPの定義は、英国では幅広い。調達方法について。

IT関係のインフラは、契約期間が短い。機器の寿命がどんどん変化するので、なじまない。第3パーティからの出資がない。銀行が投資しない。

このため契約は、政府と直接IT関係者が結ぶ。

PPPは20年以上の契約である。IT関係は短期間の契約だからPPPを活用しない。

教訓

PPP-4つのP ポリシー（政策的、財務的適切）

パブリック（公的機関の能力、民間の能力）

プロジェクト（事業自体が価値のあるものであること）

バランスシート（バランスシートのチェックが大きいので
入札者がいない）



イギリスにおけるPFIについて説明を受ける代表团

「市内調査」

○ コベントガーデン再開発地区（インナーシティにおける都市部の活性化）視察

○ 文化公共施設視察

※ 視察の所感等

英国の建物の均一性が気になったので、インターネットで、イギリスの住宅事情を調査してみた。イギリスと日本の住宅意識の違いを認識。イギリスは、住宅70年。日本は26年。ほとんどが集合住宅で公共住宅が6-7割。ほとんど町並みの建物は5-6階建て。わずかにここホリデインホテルが20数階建てで例外。

27日6時20分朝食。おいしい。クロワッサン2ヶ、洋風おかゆ、目玉焼き、チーズ、きのこ、焼きトマト、ヨーグルトに果物入りのジャムを掛けて食べる。最高でした。特にマシュマロみたいなきのこが最高。コーヒー1.5杯。以上です。6時50分からホテル周辺を散策。古い建物、樹齢数百年の樹木が街の歴史を感じさせる。9時から視察。しかし、日本の住宅行政のお粗末さを痛感。特に、長崎市は、坂が多くて、中心市街地の高台は、空き家、空き地が多くなっているから、これに対する住宅政策、都市形成を100年を見据えて計画を練る必要性を痛感。この高台を開発して、道路を作り、集合住宅を公共的に整備する必要性があると思う。